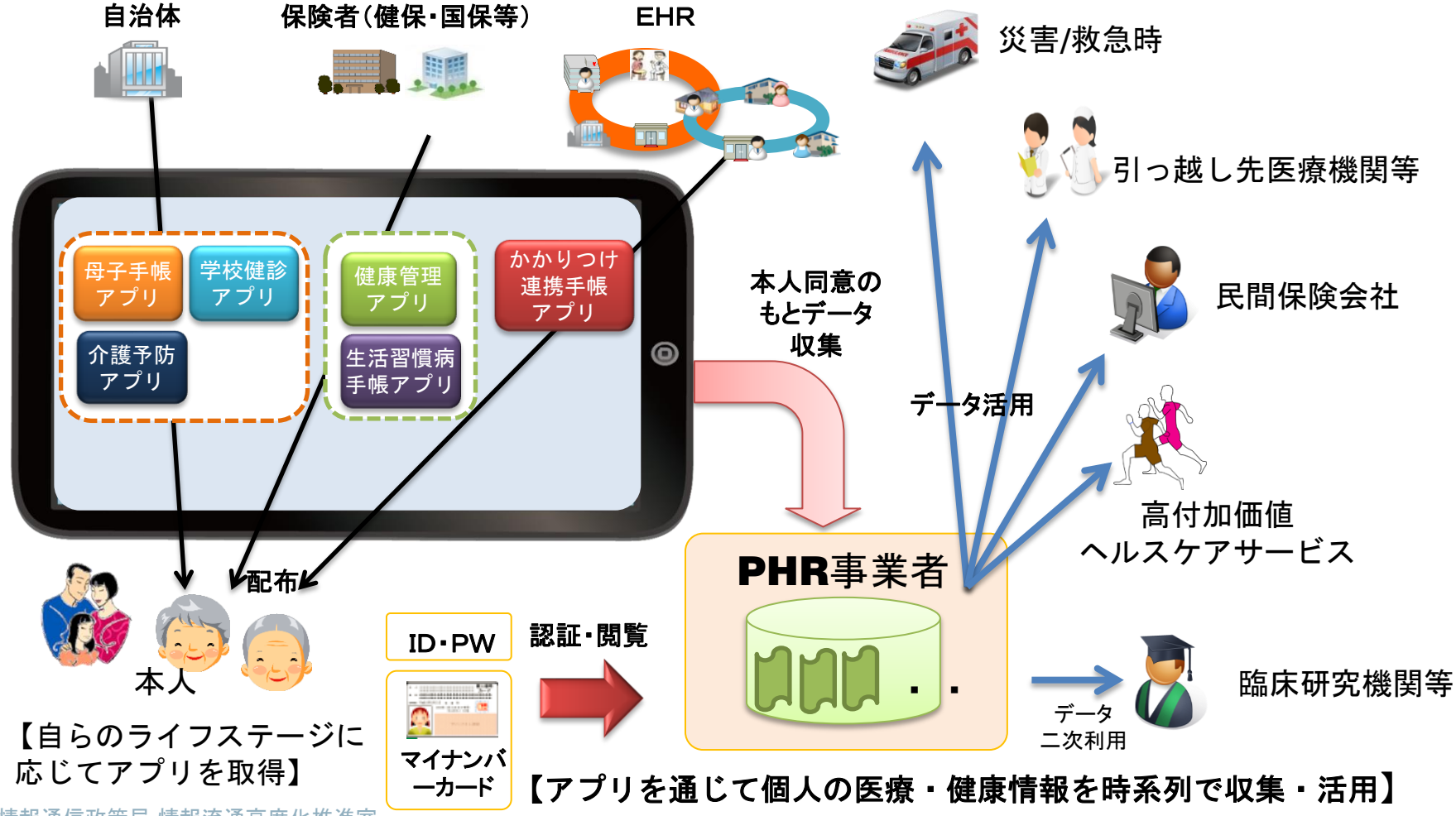
平成29年度日本医師会医療情報システム協議会
展示スペースプログラム

開催日：平成30年2月3日(土)～4日(日)
会場：日本医師会　1Fロビーホール

PHRサービスモデル等の構築

近年、クラウドやモバイル（スマートフォン）の普及とあいまって、 PHR（Personal Health Record）として個人の医療・介護・健康データを**本人の同意の下で様々なサービスに活用**することが可能になってきている。

平成28年度から①妊娠・出産・子育て支援、②疾病・介護予防、③生活習慣病重症化予防、④医療・介連携にかかる**新たなサービスモデルの開発**及びサービス横断的にデータを管理・活用できる**連携基盤（プラットフォーム）の開発**を実施中。 〔予算額 H28当初: 3 億円、H28補正： 6 億円、H29当初: 1 億円〕



日本医師会かかりつけ連携手帳(準拠・電子版)

山梨県医師会　佐藤弥・小俣　二也　　日本医師会常任理事・石川広己

「かかりつけ連携手帳」とQRコードを活用した医療・看護・介護連携へのPHR活用

政府の医療分野研究開発推進計画に基づき、日本医師会と山梨大学が共同で「かかりつけ連携手帳」電子版を開発

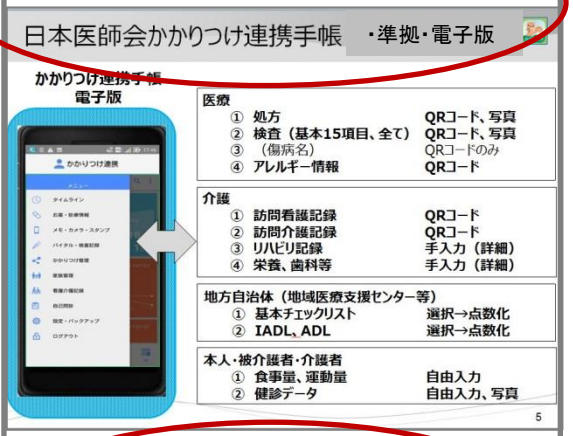
- 日本医師会、
- 日本歯科医師会
- 日本薬剤師会

三師会と連携する医療看護・介護の連携手帳

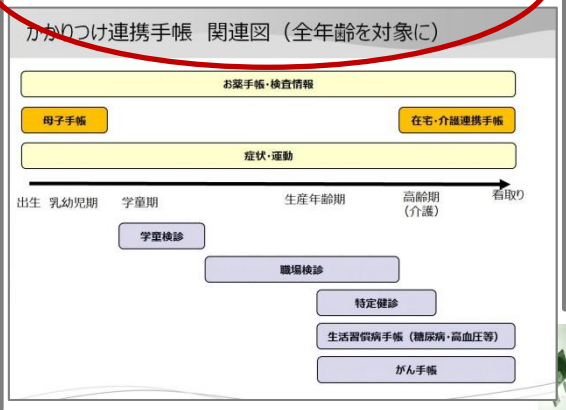
かかりつけ連携手帳アプリをGoogle Play・App Storeで公開（予定）し個人でダウンロードして各携帯にて利用可能

「かかりつけ連携手帳」をスマートフォンのアプリとして開発医療機関のレセコン・ORCAからの処方情報の授受についてNFCならびにＱＲコードを使ったシステム
AMED事業とは別に構築された訪問看護用の在宅システムを用い、本事業で策定したデータセットによるQRコードを使い「かかりつけ連携手帳」への情報提供が行える

ネットワークを経由せずQRコードで



生涯を通じ途切れのない情報の連携こそが重要!!



①ネットワークを経由せずに情報を提供するため情報漏洩のリスクが小さい
②圧縮技術を併用し大量データにも対応
③運用が簡単
（印刷するだけ）
④薬剤・検査・介護の連携による情報の拡張性が広い
⑤現在の技術では　最も簡便・安価・　汎用性がある

かかりつけ連携手帳システムの将来像
生涯を通じて途切れのない情報の連携こそが重要

▶連絡先：日本医師会常任理事・石川広己　　山梨大学医学部・地域医療学講座教授・佐藤弥　(swataru@yamanashi.ac.jp)
山梨県医師会医療情報システム委員会（山梨県医師会）(info@yamanashi.med.or.jp)

メールで資料申し込み下さい

導入事例

富士厚生グループの在宅介護/特養/デイサービス（志仁也・あんず・ももくら・山美家の施設 /ももくら訪問看護ステ-ション）他・山梨県下4カ所の医療法人にて導入中

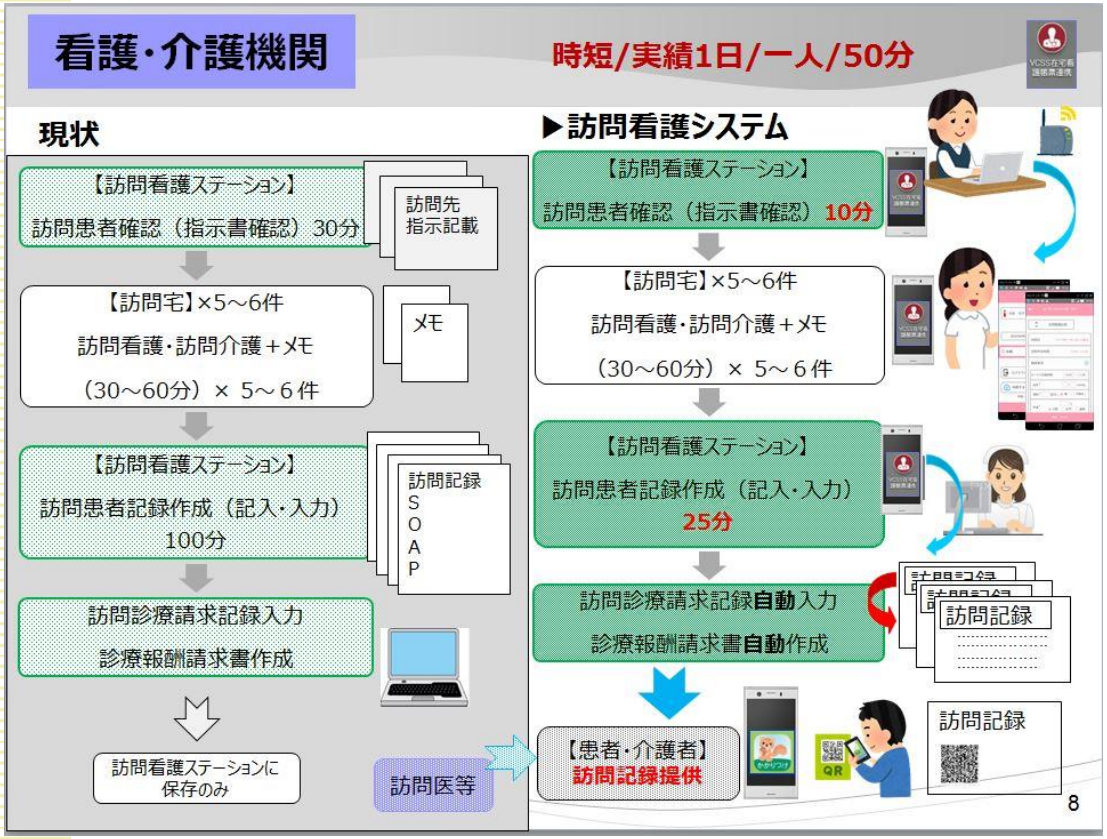
富士厚生クリニック

志仁也（シニア）

あんずの森

山美家（やまびこ）

ももくら訪問看護ステ-ション



「かかりつけ連携手帳」をスマートフォンのアプリとして開発

医療機関のレセコン・ORCAからの処方情報についてNFCならびにＱＲコードを使用してかかりつけ連携手帳に提供

ＡＭＥＤ事業とは別に構築した訪問看護用の在宅支援システムを用い、本事業で策定したデータセットを使用しQRコードを使った「かかりつけ連携手帳」への情報提供

山梨県・東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県・栃木県で実機設定設置。一回目のレセ請求まで対応しバージョンアップ等は基本遠隔操作にて実施。医療費改定は請求ソフト側由来は従来の通り。

▶連絡先：日本医師会常任理事・石川広己　山梨大学医学部・地域医療学講座教授・佐藤弥 swataru@yamanashi.ac.jp　メールで詳しい資料申し込み下さい
山梨県医師会医療情報システム委員会（山梨県医師会）(info@yamanashi.med.or.jp)